

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんこくさいきりすときょうだいがく こくさいきりすときょうだいがくこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
26～30	①学校名	学校法人国際基督教大学 国際基督教大学高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	737人	
普通科	245	248	244		737		
⑥研究開発構想名	『帰国生と国内生の相互理解教育に基づくグローバルリーダー育成』						
⑦研究開発の概要	<p>学校の枠を超えた「世界へ飛び出す学校作り」 帰国生と国内生の相互理解教育の実績を踏まえ、国内外の大学や学校との提携、グローバル企業や国際機関とのネットワークを構築する。 それを基に体験重視型課題解決教育を行い、実践的グローバルリーダーの育成を図る。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目標・目的 目的 多様化する国際社会の変化に対応できるグローバルリーダーの育成 目標 ① 国際基督教大学と提携した高大連携のリベラルアーツ教育の確立 ② グローバルスタディーネットワークの設立 (卒業生、保護者、関係者による国際的フィールドワークのサポート体制の確立) ③ 生徒のグローバルリーダーとしての資質の向上 (英語のアカデミックスキル、国際的課題に対する解決力、発信力等)</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 帰国生、国内生の相互理解教育の実践の上に、国際的体験学習の機会を充実させることで、より高い課題発見能力と問題解決能力を持った、実践力のあるグローバルリーダーを育成することができる。</p> <p>(3) 成果の普及 生徒による課題研究学習の对外発表や、研究会などによる普及</p>					
	⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容 『多文化共生社会をめざす新しい社会貢献の提案』 ＝アジア・アフリカ社会との“共生”＝ * 生徒に具体例として示す課題例 ・ 国際紛争解決のための若者主催のプロジェクトの提案 ・ 人権、差別問題撤廃のための制度改革や、新しいプロジェクトの提言 ・ 多民族国家統合へ貢献可能な新しい起業の提案 ・ 国際的な開発、支援プロジェクト（エネルギー、環境、食料、等）への提言 ・ 多文化社会で活用できる新しい教育システムの提案</p> <p>(2) 実施方法・ A 国際基督教大学教員による授業の創設 「リベラルアーツへの招待」として、人文科学、社会科学、自然科学、コミュニケーションの各分野の大学教員の講義をおこなう。 この授業は1, 2年生の課題学習の導入段階におけるアカデミックな動機付けと、3年生の課題学習の質的向上のために創設する。 B 学際的な課題研究学習講座「SGH 課題研究」の新設 課題『多文化共生社会における新しい社会貢献の提案』 ＝ アジア・アフリカ社会との“共生”＝ 国際基督教大学の教授によるチーム指導体制で行う。 「多文化共生社会」とは何か、その諸テーマ、それらの実現法、 具体的にどのように「多文化共生社会」を作り出すか。</p>					

	<p>①1年次ではSGH課題研究への導入を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校祭で「国際理解」をテーマとした企画を行う。 ・アジア学院スタディツアーを実施し、アジア・アフリカの人たちとの交流を体験する。 ・英語などでプレゼンテーション、エッセイのスキルを学ぶ。 <p>②2年次ではSGH課題研究を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SGH課題研究準備講座」を設け、大学教授の指導の下「多文化共生」について理論的に学ぶ。 ・公民科の授業などで探究学習を実施し、プレゼンテーション、ディベートのスキルを学ぶ。 ・行事マルチイベントの際、講演やワークショップにより「共生」のあり方を学ぶ。 ・夏休みに、SGH 宿泊研修・課題解決実践編「共生社会におけるリーダーシップとは」を開催する。 <p>③3年次に課題研究講座「SGH 課題研究」を設置する。</p> <p>1, 2年次の基礎的な学びをもとに実践的に課題研究にとりくむ。 国際的な広がりを持つフィールドワークを課す。 世界の若者とのディスカッションによる学習を実施する。 実践的なアクションを起こすことを目標のひとつとする。</p> <p>C グローバルスタディーネットワークの設立 (グローバル体験学習)</p> <p>上記のような課題学習をサポートするために、国際社会の第一線で活躍する卒業生・保護者と、国際基督教大学関係者と、本校とによるネットワークを設立する。</p> <p>検証評価</p> <p>生徒の課題研究学習発表の、大学の教授による評価 グローバルスタディーネットワークへのフィードバックをし、その成果を検証する。 卒業生の問題意識の変化を調査・検証する。(アンケート、文集など) 卒業生の進路の変化を大学進学・卒業後についても調査し、検証する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>A 学問的スキルとしての外国語教育</p> <p>学問的スキルとしての英語力を持てるように、まず、英語運用能力を共通テストにより確認する。また、大学をふくむ外部講師による、高校レベルをこえた英語による授業、講演、海外の大学のプログラムに参加する機会を極力増やす。 評価；共通テスト、大学講師による評価</p> <p>B ライティングセンターによる論文作成支援</p> <p>本校ライティングセンターを活用し、日本語だけではなく英語によってもさまざまなライティング技術を習得する。大学院生のチューターが論文作成支援にあたる。生徒自身の課題設定によるものも奨励する。 評価；利用状況、担当教員・チューター・生徒自身による評価、文集の発行</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の実施内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IT環境の整備 (海外とのネットワーク作りのため) ・図書館利用体制の充実 (バイリンガル体制の整備)、 ・海外研修・大会への参加奨励、企画 (海外大学、高校、企業によるグローバルリーダー育成プログラム 模擬国連、外国語スピーチコンテスト、英語ディベート大会等への参加) ・学校ぐるみのエコボランティア活動、ボランティア活動 (チャイルドファンドジャパン)
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>特になし</p>

ふりがな	がっこうほうじんこくさいきりすときょうだいがく	こくさいきりすときょうだいがくこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	学校法人国際基督教大学	国際基督教大学高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	200人
	SGH対象生徒以外:	60人	65人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: ボランティアに関心の高い生徒が多いので場を与えれば増える。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	25人	30人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 挑戦的目標として100名とした									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	80%	80%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 元々多いので90%以上は逆に多様性が無くなると考えるので現状を維持する。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	6人	0人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 模擬国連の参加者を倍増し、他の大会へも積極的に参加を勧める									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル(英検2級～準1級・TOEFL57点程度以上)の生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	37%	40%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 校内でトフル試験を実施するなどして増加を図る挑戦的な目標									
(その他本構想における取組の達成目標) 海外大学のプログラムへの参加数									
f	SGH対象生徒:								15人
	SGH対象生徒以外:		0人						
目標設定の考え方: 経済的な援助をふくめ生徒を積極的に送り出す。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
文部科学省が支援する国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	57%	67%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: グローバルリーダー育成のプログラムによってさらに志望が増える。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	10人	10人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 30名は本校生の10%以上にあたるので大きい割合であるが目標とする。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGHの取組により大きな影響があるようにしたい。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 卒業生の半数にあたる数を目標とした。この数の調査法が課題である。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	3人	3人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方： 海外のプログラムを研究し送り出す。関心のある生徒は多い。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	1人	1人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方： ヤング天城会議以外にも、いくつかのプログラムを取り入れる。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	1校	1校	校	校	校	校	校	5校
目標設定の考え方： 海外とのネットワークを広げて目標を達成したい。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	3人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方： 大学教授による指導を年間で継続して行うとする。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	3人	人	人	人	人	人	15人
目標設定の考え方： 講演会の実施回数を増加していく。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	6人	4人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方： SGH課題学習科目においては大会の参加を奨励する。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	510人	513人	人	人	人	人	人	510人
目標設定の考え方： 帰国生を定員の3分の2受け入れることは変更しない。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	0回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方： さまざまな機会に成果を発表する								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
目標設定の考え方： 整備を検討する。								
(その他本構想における取組の具体的指標) TOFLE ibt79, IELTS 6.5 以上の生徒数の増加								
j	35人	40人						60人
目標設定の考え方： 大学の留学基準を満たす生徒を増加させる。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	745	748	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							